

発災とともに駆けつけ、  
協働で支援し、  
被災者に寄り添う

～災害ボランティア・NPOの先達紹介～

各地で災害が発災した際、いち早く被災地に駆けつけ、災害ボランティアセンターや社協と連携・協働を進め、被災者への支援を行うボランティア・NPOの活動を紹介します。

第3回

## DRT-JAPAN (ディーアールティージャパン)

DRT JAPAN フェイスブック <https://www.facebook.com/drtjapan/>



### 災害時に専門技術をもって駆けつける

DRT-JAPAN (Disaster Relief Team=災害時救援チーム) は、全国各地で同じ志をもった有志によって構成される緩やかなネットワークです。法人格を有する団体ではなく任意団体として活動していますが、災害発生時にはメンバー同士で連絡を取り合い被災地に駆けつけ、メンバーが有する重機運転や屋根上作業などの専門技術を活かし、被災者を支援する技術系ボランティアです。

東日本大震災や熊本地震、大阪北部地震など各地で発災した地震災害では、屋根上のブルーシート張りや重機による片付けに取り組みました。家屋の倒壊を防ぐ補強作業やワイヤー掛け、家屋の曳き(ひき)起こしなどの技術も活かしています。また、豪雨・土砂災害では、土石流や台風、竜巻による流木・倒木の伐採・片付け、土砂撤去に取り組んでいます。

大規模災害時には、状況に応じて現地に拠点を確保し、他の支援団体や災害ボランティアセンターと連携して活動します。2022年3月(令和4年)の福島県沖地震では、他の技術系NPOとアライアンス(戦略的同

盟)を組み、南相馬市に活動拠点(ベース)を設け、宮城県山元町、福島県新地町にて屋根被害対応やDRT-JAPANの最も得意とする重機を使った倒壊ブロックなどの処理を行いました。

### 被災地で感じるボランティアの大切さ

メンバーは各自の仕事をもちながら、平常時には講習会を企画するなど、支援技術を高める取り組みを続けています。支援活動を通じての新たな展開もあり、例えば西日本豪雨を機に、広島メンバーを中心にDRT-JAPAN広島が設立されました。また三重県で活動するメンバー(DRT-JAPAN三重)は、2021年に三重県志摩市と防災支援活動等に関する協定を締結しています。

一方、個人の気力や体力に頼る活動のため、災害発災時には各自が仕事を長期間休んだり、長期にわたり車内で宿泊するなどの状況が生じます。しかし、被災された方々が他所から来た支援者を通じて励まされる場面を見てきたDRT-JAPANのメンバーは、被災地にボランティアが関わる重要性を常に感じながら活動を続けています。



専門技術を活かした屋根上での活動



自治体職員への重機講習会



地震災害による危険ブロックの撤去

## インフォメーション

### コロナ禍の経験を踏まえ、新たなステージへ ～ボランティア・市民活動の輪を広げよう～

#### 「広がれボランティアの輪」連絡会議がメッセージを公表

「広がれボランティアの輪」連絡会議では、コロナ禍を乗り越え、ボランティア・市民活動の新たなステージをめざしてお互いにつながり続けることの大切さを呼びかけるメッセージを公表しました。

地域でボランティア・市民活動を進める皆さんに、ぜひご紹介ください。また、皆さんの広報媒体でもご紹介ください。

#### メッセージはこちら

「広がれボランティアの輪」連絡会議ホームページ  
<https://www.hirogare.net/>

広がれボランティア 🔍 で検索



#### コロナ禍の経験をふまえ、新たなステージへ ～ボランティア・市民活動の輪を広げよう～

人とつながり、人々が豊かに暮らすボランティア・市民活動は、コロナ禍の2年間、停滞を余儀なくされました。しかし、感染症対策に配慮して活動を再開したり、オンラインを活用した情報共有などを進めてこれまでのつながりを守り取り組み、新たなつながりも築き取りながら各地で続けられています。一方で、ボランティア・市民活動に関わるみなさん、それぞれのご事情によって、いまは活動が再開できない方も、活動の再開や充実を必要とする人と連携を取り合い、互いを助け合えることも、貴重な営みにつながるとも思います。

「広がれボランティアの輪」連絡会議は、支援を必要とする人々がいるなかで、コロナ禍のもと活動を継続しているみなさん、そして新たな活動にふみだしているみなさんに、心からのエールを送ります。

しかし、コロナ禍の経験は、もうしばらく時間を要します。

日本のボランティア・市民活動は、これまでさまざまな困難を乗り越えて進められ、発展してきました。「広がれボランティアの輪」連絡会議では、昨秋に開催したボランティア全国フォーラムにおいて、どんな状況のもとでも、そのなかでできるボランティア活動を模索し、活動の準備を積み、チャレンジを続ける考え方を学びました。

現在の世界や日本、そしてみなさんが暮らす地域では、多くの解決しきれない社会課題が発生しています。

「広がれボランティアの輪」連絡会議は、コロナ禍のもとでもこれらの課題に向き合い、解決のためのチャレンジを続けてくれるボランティア・市民活動が、こひかりの輝きで希望や地域づくり、そして誰もが尊重される社会につながることを確信しています。そして、ボランティア・市民活動に関わるすべてのみなさんが、より活動を進めやすい社会や条件づくりをめざして、2024年の創設30周年に向けた活動を展開するとともに、さらにその先に向けて歩みを進めます。

ボランティア・市民活動の新たなステージをめざして、お互いにつながり続けよう。

2022年6月14日 「広がれボランティアの輪」連絡会議